



人と環境にやさしいトランジットモデル都市をめざして RACDA

第 134 号 2015/ 1 初市

新春初夢企画

近未来レポート～医療と公共交通
先進都市岡山 ‘中年 A の証言’

■めでたく新年を迎えたのだが、ここ最近、病院に行く機会が増えた気がする。昨秋、市内に住む祖父が倒れ、岡山大学病院に入院した。祖父にはよく正月明けに、路面電車に乗って内山下の証券会社に連れて行かれた後、表町商店街で本を買ってもらったものだ。そんな祖父が脳梗塞になったのだが、高度な技術の手術と治療によって命は取り留める事が出来た。若干障害が残るかもしれないが、市の地域ケア総合推進センター「ほっと安心相談室」に相談が出来るので、退院後の生活に心配はない。入院中は、岡山駅～市役所～水道局～清輝橋の市内環状ルートが LRT によって整備されているので、多忙な毎日の中でも見舞いに行く事が出来た。公共交通機関の整備は利便性向上の為のインフラ整備という位置付けだけでなく、人と人のふれあいを増やし、人間関係の絆を深めるのにも大切なアイテムである事を痛感した。

■先月、北木島に住む叔母が、瀬戸内海巡廻診療船の島民検診で、胃にポリープが発見され済生会病院で治療入院をした。今でこそ瀬戸の花嫁の如く島へ嫁ぎ、静かな生活を送っているようだが、番町線で女学校に通っていた頃は、他校の男子生徒のマドンナだったという話をよく叔母には聞かされたものだ。済生会病院も非常に便利である。吉備線（岡山～総社）の LRT 化と同時に、その延長上の津山線（岡山～玉柏間）も LRT 化されたからだ。途中の国体町停留所で下車すれば目の前が済生会病院だ。この津山線の部分 LRT 化は、ファジアーノのホームスタジアムや榊原病院、岡山大学、岡山理科大学などへの市内アクセスの向上だけでなく、終点玉柏駅から赤磐市桜ヶ丘方面へのフィーダーバスを接続させる事により、近郊アクセスの向上にも貢献している。郊外ニュータウンの住居者高齢化と過疎化が懸念されていたが、利便性の向上により結果、住民がアクティブになり、元気な中高年が多い町として全国的に話題となっている。

■年明けすぐの事だ。勤務先の上司が、ファジアーノ

入団を夢見る息子さんとサッカーの練習をしている際に腰を痛め、椎間板ヘルニアで赤十字病院入院している。上司とはいえ中学校時代の先輩でもあり、車道の両側、歩道のすぐ横を走る清輝橋線に乗って、千日前の映画館で授業をさぼっていた頃からの腐れ縁である。この病院も便利である。渋滞の激しい国道 30 号線の清輝橋～十日市交差点間の渋滞緩和を目的とし、公共交通とマイカーの走行車線立体分離化が推進されたからだ。公共交通走行レーンを高架化（通称：晴れみち岡南ライン）し、LRT の軌道も施設し、LRT と BRT（バス高速輸送）の併用区間となっている。岡南地区への路面電車の延伸を求める声は多かったが、上記区間は道幅の問題から困難であった。しかしこの施策により、軌道系交通の岡南地区延伸実現と路線バスの定時走行にも貢献している。

■最近、僕は胸が苦しくて眠れない夜が続いている。明日、岡山医療センターに行ってみようと思う。施設へのアクセスは問題なし。LRT 化された吉備線の備前三門から平面交差する都市計画道路を北上し、津島京町を経て岡山北バイパスの真ん中に、医療センターまで軌道が施設されているからだ。このルートも LRT と BRT の併用区間（通称：晴れみち岡北ライン）で、路線バスと空港リムジンバスも併走する。この区間は新設の道路で且つ道幅も広く、比較的 LRT の整備は容易だったように思う。改めて備前三門付近立体交差事業の件についての決断は正しかったと、当時の関係者の方々には感謝している。明日はその LRT に乗って憧れのナース ‘ももちゃん’ に逢いに行くのだ。こちらの方はお互いの気持ちのアクセスが、まだまだ不十分で距離があるのだけど……。そう僕の病気は、恋煩い。

安藤 亮

事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内1-1-15(禁酒会館3F) TEL&FAX 086-232-5502
E-mail racda_okayama@ybb.ne.jp RACDA 検索

詳しくは http://wiki.livedoor.jp/racda_okayama/ まで

